

「家庭基礎」学習指導案

広島県立大崎海星高等学校
教諭 岡光 春香

本学習指導案のポイント（教育センター 指導主事 久保 紗和子）

- 実際のおもちゃや遊びに触れながら、子供がおもちゃや遊びによって獲得する能力を子供の発達と関連付けて気づかせ、グループ活動で共有する過程を通して思考を深める学習となっていた。
- 現在の自分の視点から子供の生活を俯瞰して捉え、最終的には自らが子育てをする当事者として、ライフプランの設計を検討することができる単元構成となっていた。

- 1 実施日 令和5年11月17日（金） 6時限：14時25分～15時15分（50分）
- 2 学年・学級 1年A組 前半クラス 18名（男子 9名、女子 9名）
- 3 単元名 「子供と共に育つ」
- 4 単元について

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領家庭基礎「A人の一生と家族・家庭及び福祉」(3)子供の生活と保育」に位置付いている。本単元では乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子どもを取り巻く社会環境、子育て支援について理解するとともに、乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付けることを目標とする。また、子供を生み育てることの意義について考えるとともに、子供の健やかな発達のために自分や家族及び地域や社会の果たす役割について考え、生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養うことを目標とする。

(2) 生徒観

対象クラスでは生徒自身に年の離れた兄弟がいたり、地域での活動で幼児と関わったりする機会のある生徒もおり、子供との生活が身近だと感じている生徒が存在するクラスである。一方で、将来のライフプランを考えたときに子供を持つ予定がない、と答える生徒も複数人いたことから、子育てへの関心が低い生徒も存在する。したがって、子供の心身の発達や保育についての知識・技能を身に付けるとともに、子供の遊びを実践したり、子どもの食生活・衣生活に触れたりする活動を通して、子育て・保育について主体的に考える姿勢を身に付けさせることが有効である。

(3) 指導観

単元の指導に当たっては、子供の心身の発達や保育についての知識・技能を身に付けるだけでなく保育や子供を取り巻く社会環境、子育て支援などの現状を扱いながら自身の生活とのかかわりを踏まえて主体的に考えるよう指導する。また、胎教音楽を聴いたり保育人形に触れさせたりすることで、子供の発達に対する大人の働きかけについて理解を深める。さらに、生徒自身に子供の生活に関心を持たせるために、子供用のおやつなどの試食やおもちゃなどを体験させ、子供の生活について理解を深めさせるとともに課題を発見させる。

5 単元の目標

- (1) 乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子供を取り巻く社会環境、子育て支援について理解するとともに、乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付ける。[知識及び技能]
- (2) 子供を生み育てることの意義について考えるとともに、子供の健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について考察する。[思考力、判断力、表現力等]
- (3) 子供に関わる自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。[学びに向かう力、人間性等]

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子供を取り巻く社会環境、子育て支援について理解するとともに、乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付けている。	・子供を生み育てることの意義について考えるとともに、子供の健やかな発達のために親や家族及び地域や社会について問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・よりよい社会の構築に向けて、子供の生活と保育について課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践をしようとしている。

7 指導と評価の計画

指導と評価の計画（全7時間の4時間目）

次	学習内容(時数)	評価				
		知	思	主	評価規準	
1	命を育むことについて知る(1時間)	○	◎		・性と生殖に関する健康について理解している。 ・青年期の高校生として命に対する責任について考えている。	ワークシートの記述発表
2	子供の心身の発達を知る(2時間)	◎			・子供が生まれつき持つ能力、身体や心の発達と生活について理解している。	ワークシート 定期考査
3	子供と「遊び」について考える(1時間)	○	◎		・様々な遊びを通して、子供が獲得する能力について理解している。 ・子供の発達と遊びの関係について考えている。	ワークシートの記述 グループ活動での行動観察

5	子供の発達と保育 (1時間)	◎	○		<ul style="list-style-type: none"> 子供の生活習慣や衣食住の生活について理解している。 保育とは何か考えている。 	ワークシート
6	現代の子育てについて考える(1時間)	◎	○		<ul style="list-style-type: none"> 現代の子育て環境の変化や課題について理解している。 子供が健やかに育つ社会とはどのような社会かを考えている。 	ワークシート
7	これからの子供との関わり(1時間)		○	◎	<ul style="list-style-type: none"> 自分がどのようにこれから子供と関わっていきたいかを見直し、考えている。 自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。 	ワークシート 振り返り(自己評価)

8 本時の展開

(1) 本時の目標

- 遊びを通して子供が獲得する能力について知ることができる。【知識及び技能】
- 子供の心身の発達と「遊び」の関係について、遊びの実践を通して考える。【思考力、判断力、表現力等】

(2) 観点別評価規準

- 遊びを通して子供が獲得する能力について理解している。【知識・技能】
- 遊びの実践を踏まえて子供の心身の発達と遊びの関係について考え、工夫している。【思考・判断・表現】

(3) 準備物

教科書「家庭基礎自立・共生・創造」(東京書籍)、ワークシート、乳幼児期のおもちゃ、遊びの説明用紙

(4) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意事項 ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への 手立て	評価規準 (評価方法)
導入 (5分)	1 前時の振り返りをする。 ○子供の心身の発達について学んだことをワークシートで振り返り確認する。		
	2 本時の目標を確認する。 ○遊びを通して子供が獲得する能力について知ることができる。 ○子供の心身の発達と「遊び」の関係について、遊びの実践を通して考える。		
展開 (40分)	3 乳幼児の遊びの例やおもちゃに触れ、子供がどのような能力を獲得しているか考える。 ○子供のおもちゃや遊びにグループで触れ、子供のどのような発達と関係があるか、話し合う。 ○気づきをグループで発表する。	○子供にとっての遊びが「学習」であることを伝え、どのようなことが学べると思うか意識して話し合うよう伝える。 ◆子供にどのような能力が身に付いてほしいか、大人の視点から考えるよう促す。 ○活動を2段階に分け、1回目は青年期の高校生の視点から子供のおもちゃや遊びに触れさせる。2回目はより子供の気持ちになりきって、子供の発想力や体の発達を意識しながら活動するよう伝える。 ○教科書や前時のワークシートを振り返りながら、子供のおもちゃや遊びがどのような発達を促しているかを考えるよう伝える。	遊びの実践を踏まえて子供の心身の発達と遊びの関係について考え、工夫している。【思考・判断・表現】 (行動観察) 遊びを通して子供が獲得する能力について理解している。【知識・技能】 遊びの実践を踏まえて子供の心身の発達と遊びの関係について考え、工夫している。【思考・判断・表現】 (ワークシート)
	4 遊びの種類、子供にとっての遊びの重要性についてワークシートにまとめる。 5 子供にとっての遊びの重要性について考えたことを発表する。	○遊びが子供にとって重要であること、またそれを踏まえて大人としてどのように関わる必要があるかを考えさせる。	
まとめ (5分)	6 本時の振り返りをする。		

(5) 判断基準

	知識・技能	思考・判断・表現
A(十分満足できる)	遊びを通して子供が獲得する能力について、活動を通して事前に学習した知識と関連付けながら発見することができている。	子供の心身の発達と遊びの関係について、遊びの実践を踏まえて考察し、その重要性について表現している。
B(おおむね満足)	遊びを通して子供が獲得する能力について、活動を通して発見することができている。	子供の心身の発達と遊びの関係について、遊びの実践を通して表現している。
C(努力を要する)	遊びを通して子供が獲得する能力について、活動を通して発見することができていない。	子供の心身の発達と遊びの関係について表現している。